令和５年度

事 業 計 画 書

京都府中小企業技術センター

目　　次

当センターの概要 …… 1
1　組織図 …… 1
2　人員構成 …… 1
令和５年度事業計画 …… 2
1　中期事業計画の重点と取り組み …… 3
2　技術支援 …… 3
3　人材育成 …… 3
4　研究開発 …… 3
5　関係機関との連携 …… 4
6　情報発信 …… 4
7　地域産業の活性化 …… 4
8　技術支援体制の充実・強化 …… 4
・令和５年度研究会、セミナー・講習会一覧 …… 5
・令和５年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール …… 8
・令和５年度所内研究、共同研究 …… 9
・重点技術課題 …… 11
・重点技術課題の設定とセンターの対応力・得意分野 …… 12
（参考）沿革、所在地及び施設等の概要 …… 13

中小企業技術センター憲章

平成 24 年 3 月策定

基本理念

私たちは、京都府産業を支える中小企業の技術力向上を支援し、企業活動と地域経済の発展に貢献します。

基本方針

1　府内中小企業の皆様の期待に応えられる技術的な価値とサービスの提供をめざします。
2　府内中小企業の皆様から必要とされ、気軽にご利用いただけるセンターをめざします。
3　産業支援機関や大学など多くのパートナーと連携・協働し、府内中小企業を幅広く応援します。
4　サービスの質と量の向上を図り、府内中小企業のイノベーション（技術革新）と持続的発展に貢献することをめざします。

行動指針

1　お客様本位
常に当センターを利用されるお客様の立場に立って考え、行動します。
2　現場視点
常にお客様との対話を大切に、現地現場の視点から考え、行動します。
3　自己革新
常にネットワークを拡げ、産業技術の動向に注目し、自己研鑽を図りながら、自己革新に努めます。
4　社会的責任
常に技術支援の社会的責任を自覚し、高い倫理観をもって行動します。

当センターの概要

1　組織図

- 所　　長
- 副　所　長
- 総　務　課　○予算　○人事　○庶務　○庁舎管理
- 企画連携課　○事業の企画・調整　○研究調整・管理　○広報　○デザイン分野における相談、支援、研究
  - 企画連携係　●事業の企画・調整　●産学公連携の推進　●広報・情報発信
  - デザイン情報係　●所内情報システムの管理　●研究調整・管理　●デザイン、商品企画、販売促進
- 基盤技術課　○各分野における相談、支援、研究
  - 設計計測係　●機械設計、造形、精密加工、精密計測
  - 材料評価係　●材料加工、材料に関する機能評価
  - 化学分析係　●化学、環境技術、材料分析等
- 応用技術課　○各分野における相談、支援、研究
  - 電気通信係　●電気・電子技術、EMC（電磁環境両立性）技術、光・マイクロ波・ミリ波技術
  - 食品バイオ係　●食品・バイオ関連技術、食品機能性成分、食品廃棄物利用技術
  - 表面構造係　●表面処理技術、新素材関連技術、微細加工技術
- 中丹技術支援室　○北部地域における技術支援、研究開発推進及び人材育成支援
- けいはんな分室　○けいはんな立地機関・大学と府内企業のコーディネート

2　人員構成

	人　数			
		事　務	技　術	技能労務
所　　長	1		1	
副　所　長	1	1		
総　務　課	5	4		1
企画連携課	10	2	8	
基盤技術課	9		9	
応用技術課	12		12	
中丹技術支援室	4		4	
けいはんな分室	1	1		
計	43	8	34	1

（令和５年４月１日現在）

注：会計年度任用職員を除く。

令和５年度事業計画

新型コロナウィルスは地球規模で社会や経済に衝撃を与え、デジタル化に向けた動きの加速などによって、産業構造に大きな変化が生じています。このような先行きが見通しにくく厳しい状況にあっても、京都府内の中小企業の皆様が技術向上に取り組まれ、また社会変革を捉えた新製品開発を進められる中、当センターでは技術支援、人材育成、研究開発、情報発信を柱に様々な企業支援を行っているところです。

令和５年度においては、京都府産業を支える中小企業の皆様の技術力向上を支援するため、当センター憲章をよりどころとして第4期中期事業計画を推進し、以下の３項目を重点目標としながら様々な取り組みを行います。

1. 職員力の向上

「頼られるセンター」であるための至上命題。技術継承・資質向上、研究活動の促進､課や係の枠を超えた企業支援の強化などを含めた総合的な職員力を向上させます。

2. 現場主義の徹底

企業や業界のニーズに対応するために不可欠で、職員力の向上にもつながる重要な命題。企業訪問の促進、業界団体や関係機関等との連携強化など、現場主義を徹底します。

3. 即応性の強化

社会情勢や環境の変化、災害等の突発的な課題に対応するために必要な命題。状況に即して迅速かつ柔軟に対応できる組織となるため、即応性を強化します。

令和５年度数値目標

	項　　目	目　標　値
技術支援	技術相談･指導件数	2，000件
	機器貸付件数	3，100件
	依頼試験(種目)件数	1，450件
	企業訪問件数	450社
人材育成	研究会･セミナー開催回数	195回
	研究会･セミナー参加人数	5，000人
研究開発	研究調査(所内･共同･受託)件数	15件
情報発信	ホームページ閲覧件数	280，000PV(注)
中期事業計画	外部資金等獲得申請件数	4件

(注) PV：ページビュー

１　中期事業計画の重点と取り組み

第４期中期事業計画において掲げた重点目標を達成するために取り組みます。

取り組みのコンセプト

「待ちの組織から導ける組織へ　～企業ニーズに即したソリューションを提供します～」

取り組みの内容

企業や業界の直面する技術課題やセンターに求められているものを調査等により把握し、どのような解決策を提供できるかを軸に分析を行い、導かれた解決策を事業立案・推進を経て、業務へ反映させることにより、企業や業界への支援を行う業務サイクルを確立させます。

また、「課題発見・分析、事業立案・推進」のサイクルを職員の実践を通して定着、向上させることによって、突発的な課題に対しても迅速かつ柔軟に対応できる組織としての即応性を強化します。

２　技術支援

中小企業が抱える技術上の課題解決や技術水準の向上、新製品や新技術の開発促進などを支援します。

・技術相談
・依頼試験
・機器貸付
・企業訪問による現地現場対応
・企業への助成、表彰等に係る技術審査
・府施策と連携した技術的対応
・地域技術相談会の開催

３　人材育成

基盤技術の強化や技術者の育成、新事業展開の準備など、これからのものづくりに必要な幅広い分野のスキル向上のための研究会やセミナー開催等により、中小企業の人材育成を支援します。

・研究会、セミナー・講習会の開催

☛ 令和５年度研究会、セミナー・講習会一覧（ｐ５）
☛ 令和５年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール（ｐ８）

・研究生・実習生の受入
・中小企業等への啓発

４　研究開発

地域産業や中小企業が直面する技術課題の解決を第一の目標として、通常の技術相談や依頼試験、機器貸付では解決できないテーマや今後必要と見込まれるテーマ等について、所内研究、共同研究及び受託研究として取り組み、中小企業の研究開発を支援します。

・所内研究、共同研究　☛ 令和５年度所内研究、共同研究（ｐ９）
・受託研究
・委託研究
・研究課題評価
・知的財産の活用
・企業との協働による具体的な技術開発の推進

５　関係機関との連携

企業支援の充実を図るため、関係機関等との連携を進めます。また、中小企業が抱える技術課題に対するニーズと大学が保有する技術シーズ、その両方からのアプローチで産学公の連携強化を図り、「大学のまち京都」の資源を生かしたネットワークづくりを支援します。

・広域での公設試験研究機関の連携
・産業支援機関との連携
・大学との連携
・業界団体等との連携

６　情報発信

当センターにおける広報をお客様との対話の出発点として基本的な考え方などを定めた「京都府中小企業技術センター広報のありたい姿」の実現をめざし、中小企業等に役立つ情報を迅速に提供し、当センターへの理解の向上と活用の促進を図ります。

・中小企業への情報提供と府民への広報
・施設の公開

７　地域産業の活性化

中丹地域の「中丹技術支援室」（綾部市）、「けいはんな分室」（木津川市・精華町）を拠点として、広域振興局や地域の産業支援機関等と連携し、地域特性に応じた支援を実施し、地域産業の活性化を図ります。

・北部地域におけるものづくり産業の振興
・けいはんな地域における大学・研究機関と企業との連携推進

８　技術支援体制の充実・強化

職員の資質向上や技術継承を図る力を「職員力」と整理してまとめた「研修体系」に基づき、中小企業の期待に応えられる技術・知識、評価・提案力、研究開発力や他機関等とのコーディネート力の向上をめざします。その他、技術支援体制の充実と強化に努めます。

・技術職員の資質向上
・機器利用者への支援体制強化
・知的財産の管理
・機器の整備
・業務運営に係る基盤的事項

令和５年度研究会、セミナー・講習会一覧

研究会

	名　　称	内　　容	担当課・係
1	新工芸研究会	京都の文化と工芸の歴史的経緯を踏まえながら、現代の新たな技術、素材を取り入れ、伝統工芸を横断的に結んだ新たな京都工芸の創造につなげるため、調査研究・試作開発研究・需要開拓研究・その他必要な事業を行います。	企画連携課 デザイン情報係
2	ものづくり分析評価技術研究会	現場で活きる分光分析に関する系統的かつ高度な知識とノウハウを兼ね備えた“ものづくり技術人材の育成”を支援し、ものづくり企業の技術力の向上と製品開発の後押しを図るための研究会を開催します。	基盤技術課 材料評価係 応用技術課 表面構造係
3	京都光技術研究会	幅広い光関連技術分野毎の業界の動向・ニーズについて情報交換を行い、企業間連携の促進、課題に応じた共同研究の立ち上げ等のマッチングを支援します。	応用技術課 電気通信係
4	京都実装技術研究会	電子機器の生産に深く関わる接合・実装技術を中心に、生産現場の高度化のために必な課題や各社が抱えている共通の課題の解決を目的とした、セミナーやワーキンググループ活動を行います。	
5	表面処理技術研究会	めっき事業所の技術力強化のために、現場を担う若手技術者の人材育成をねらいとして、京都府鍍金工業組合青年部と共催し、若手技術者、経営者の技術力向上のため、品質管理、新規市場の開拓について研究紹介や技術講習会を開催します。	応用技術課 表面構造係
6	デジタルマニファクチャリング研究会	開発プロセス(設計－試作－評価)での CAE の活用を体感できる研究会活動を通して、中小企業のものづくり現場におけるフロントローディングを後押しします。	中丹技術支援室
7	製品開発企画研究会	中丹地域を中心としたものづくり企業の製品開発力を高め、経営資源を強化するために、自社の強みやスキルを活かし、地域産業の育成に貢献できる新製品の開発に必要な基礎知識や開発の進め方を実践的に学びます。	
8	新規 けいはんな技術活用研究会	KICK に導入されているモーションキャプチャー等の映像関連機器、CAE などの工業製品の設計開発支援機器を活用し、けいはんな地域の企業、研究所、大学等と連携して新技術開発と市場開拓を目標とし、3視点から分科会を構成します。	けいはんな分室

セミナー・講習会

	名　　称	内　　容	担当課・係
1	企業情報化支援セミナー	中小企業の情報化を支援するために、関連団体と連携して開催する、情報システムを活用した業務効率化等のための最新技術や動向に関するセミナーです。	企画連携課 デザイン情報係
2	マーケティングデザインゼミナール	デザインを切り口としたブランディングとマーケティングについて、その概要を学ぶセミナーと自社の課題を掘り下げるワークショップを組み合わせたデザインゼミナールです。デザインを取り入れるメリットを学ぶことに始まり、自社の分析と課題を把握するワークショップを通じて自社の開発・経営指針を定め、これに基づいたブランディングと世界市場を見据えたマーケティングに挑戦します。	

	名　　称	内　　容	担当課・係
3	映像制作技術講習会	仕事の中で映像を利用した情報発信の機会が増えています。この講習会では初心者が失敗しがちな注意点をはじめ、本格的な撮影テクニック、機材選びから編集ノウハウまで実習を交えながら「映像技術の基礎」を学びます。	企画連携課 デザイン情報係
4	機械設計基礎講座	機械設計者は設計から加工まで、広い知識が必要とされます。設計技術者を対象に、設計・製図に必要な材料・加工等の知識や寸法公差・幾何公差の知識について習得する講座を開催し、設計技術力の高い人材の育成を図ります。	基盤技術課 設計計測係
5	3D 技術活用セミナー	3D　CAD、3Dプリンタ、3Dスキャナなど3D技術とその周辺技術の最新動向を紹介し、ものづくり企業の技術と製品開発力の向上、人材育成を支援するセミナーです。	基盤技術課 設計計測係
6	ものづくり先端技術セミナー	ものづくり技術開発の高度化の促進を目的にした、新機能材料、表面処理技術、精密加工技術、計測評価技術等の先端的技術情報に関するセミナーです。	基盤技術課 材料評価係
7	化学技術セミナー	新しい機能材料、加工技術、分析技術や国内外の化学物質規制などの情報を提供。また、RoHS 規則等の国際的化学物質規制や国内の環境関連法令への対応を支援します。	基盤技術課 化学分析係
8	電磁波技術セミナー	5G通信などのマイクロ波・ミリ波や電磁ノイズ対策（EMC）など、電磁波に関する様々な技術に関するセミナーです。これらの技術を用いた製品や技術開発をされている方、これから取り組もうとされている方が主な対象です。	応用技術課 電気通信係
9	光ものづくりセミナー	光関連技術分野の製品開発を行っている企業や、これから新規分野に進出を図りたいと考えている企業を対象に、光関連技術のトレンドや話題の提供を行うセミナーです。	
10	実装技術スキルアップセミナー	電子部品等の実装において、各社の課題となっている事象の解決を目的として、現場にて実装作業に従事されている方を対象に、はんだ付け技術の基礎から具体的な実習をメインにしたセミナーです。	
11	食品・バイオ技術セミナー	食品・バイオ関連技術分野の製品開発・製造・販売を行っている企業を対象に、「新しい食品・バイオ技術」、「食品市場動向から見る技術開発の方向性」等の新しい技術情報を提供します。	応用技術課 食品バイオ係
12	表面技術セミナー	表面処理技術や評価技術、話題となっている製品、材料、加工技術等に関する幅広い情報の提供や大学等の研究シーズの発信を行うとともに、企業連携につながる研究テーマの発掘を目的としたセミナーです。	応用技術課 表面構造係
13	IoT 実習セミナー	デジタルトランスフォーメーション（DX）を進める上で欠かせない、電子部品をコントロールするために必要な基礎知識とプログラミングを、参加者自らが PC と試作ボードを使って学ぶ、実習中心のセミナーです。	中丹技術支援室
14	機器操作・活用セミナー	中小企業の技術者自らが当センター中丹技術支援室の機器類を操作、活用するとともに、より多くの評価を行い、生産現場での問題解決の幅を広げることができるようにする実習形式のセミナーです。	
15	工業技術研修	基礎技術力を高めて地域の若手技術者の養成を図るため、当技術センター中丹技術支援室の機器類を実際に操作して実施する研修。機械科コースと電気科コースがあります。綾部工業研修所（事務局：綾部商工会議所）と共催。	
16	新分野進出支援講座	中小企業の新分野への進出や展開を支援する講座。エネルギー、環境、健康、福祉などの分野を中心に、最新情報、取り組み事例、大学のシーズの紹介等を行います。	

	名　　称	内　　容	担当課・係
17	品質管理(QC)講座	ものづくりの現場における生産管理力の向上と、製品の信頼性向上のために重要な品質管理の知識を習得する講座です。QC 検定 3～4 級レベルの基礎コースと、2 級レベルの上級コースを開催します。	中丹技術支援室
18	産業人材育成基礎講座	中丹地域に立地する企業の技術者を対象にした、基礎的な知識を体系的に学べる講座です。本年度は制御技術に関する講座を開催します。	

令和５年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール

（４月１日現在）
月の数字は開催回数

	番号	名称	回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	担当	
研究会	1	新工芸研究会	12回	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	本所	企画連携課
	2	ものづくり分析評価技術研究会	4回							1	1	1		1			基盤技術課
	3	京都光技術研究会	8回	1	1		1	1		1	1		1	1			応用技術課
	4	京都実装技術研究会	5回		1		1				1		1		1		
	5	表面処理技術研究会	2回				1			1							
	6	デジタルマニファクチャリング研究会	6回		1		1		1		1		1		1	中丹技術支援室	
	7	製品開発企画研究会	2回		2												
	8	けいはんな技術活用研究会	3回		1		1		1	他、随時開催						けいはんな分室	
セミナー・講習会	1	企業情報化支援セミナー	3回			1				1			1			本所	企画連携課
	2	マーケティングデザインゼミナール	10回	1		1	1		1	1	1	1	1	1	1		
	3	映像制作技術講習会	7回		1	1	1			1	1	1			1		
	4	機械設計基礎講座	3回					1	1	1	1						基盤技術課
	5	3D技術活用セミナー	3回				1			1			1				
	6	ものづくり先端技術セミナー	1回							1							
	7	化学技術セミナー	2回							1			1				
	8	電磁波技術セミナー	3回			1				1				1			応用技術課
	9	光ものづくりセミナー	2回						1			1					
	10	実装技術スキルアップセミナー	1回									1					
	11	食品・バイオ技術セミナー	3回				1			1				1			
	12	表面技術セミナー	2回						1						1		
	13	IoT実習セミナー	9回						1	3	2	3				中丹技術支援室	
	14	機器操作・活用セミナー	4回		2						1	1					
	15	工業技術研修	74回	機械科コース：37回、電気科コース：37回													
	16	新分野進出支援講座	2回									1		1			
	17	品質管理(QC)講座	9回			4	4	1									
	18	産業人材育成基礎講座	10回			3	4	3									
	19	研究成果発表会	1回				1									本所	企画連携課

令和５年度所内研究、共同研究

京都府総合計画及び商工労働観光部重点目標を踏まえて定めた「重点技術課題」（ｐ11）によることを基本とするとともに、以下のとおりとします。研究の実施に当たっては積極的に競争的外部資金の獲得に努めます。

研究課題設定の視点

・企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題
・依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発

研究結果の普及・活用についての視点

・現況調査では課題を把握・予見すること
・技術の改善・効率化に役立てること
・技術の探求や知見の蓄積を行うこと

職員による研究調査

	研究テーマ	概　　要	担当課・係
1	3DA データ活用による検査業務効率化の検証	3次元 CAD の普及により、図面に代わって3D データで指示される方向に進んでいる。その際、材質、寸法公差、幾何公差、表面処理など製品特性と、名称・品番など管理情報が付加された「3DA モデル」が国際的に規格化され、日本では、JEITA のガイドラインが発行されている。このガイドラインのうち部品検査手法について、JEITA、京都試作ネットと連携して実証し、その課題及び業務効率化の効果を検証する。	基盤技術課 設計計測係 中丹技術支援室
2	印刷技術を用いた機能性電磁材料の開発	5G や次世代 6G 通信等で使用されるミリ波領域やテラヘルツ領域の周波数利用のためには、付随技術として、これらの電磁波を透過あるいは反射する等の機能性材料開発が必要である。そこで簡便な印刷技術を活用し、印刷積層でカスタマイズ可能な新規機能性電磁材料開発を進め、その実用性について検討する。	応用技術課 電気通信係
3	ミリ波－テラヘルツ波帯の特性評価の系統的調査	当センター所有のベクトルネットワークアナライザでのミリ波帯電磁波特性とテラヘルツ非破壊検査装置におけるテラヘルツ帯電磁波特性の結果を比較検証することにより、両者測定の互換性・補完性について検証する。	応用技術課 電気通信係 基盤技術課 材料評価係
4	産業用 X 線 CT 撮像における金属アーチファクトの除去	X 線 CT 撮像において金属材料の撮像を行うと、X 線の波長による吸収率の違いに起因するスペクトルの変化（ビームハードニング）により、CT 再構成が正しく行われずアーチファクト（実物と異なる画像）が生じる。 当センターに設置しているマイクロフォーカスX線CTシステムについて、アーチファクトを除去し金属および金属を含む部品の撮像を正確に行える環境の構築を目指す。	応用技術課 電気通信係

	研究テーマ	概　要	担当課・係
5	放射性電磁界イミュニティ試験における電界レベル高強度化の検討	放射性電磁界イミュニティ試験は電波暗室内で規格に定められた試験周波数及び試験レベルの電磁波をアンテナから照射することによる、耐ノイズ試験であるが、当センターの設備では3V/m（＜3GHz）まで電界強度が制限される。そこで、試験品とアンテナの距離に依存し、電界面がどのように変化するか検証することで、高電界強度試験の可否について検討する。	応用技術課 電気通信係
6	有機溶媒含有廃液中のイリジウムの回収	イリジウムは白金族に属する貴金属元素で、様々な工業分野で用いられている。イリジウムは希少で高価であることから使用過程においてイリジウムが混入した廃液は回収して再度製品へとリサイクルすることが求められている。本研究では有機溶媒廃液中のイリジウムの回収プロセスについて検討を行う。	中丹技術支援室 基盤技術課 化学分析係

重点技術課題

1　研究課題や研究結果の普及・活用についての考え方

(1) 重点技術課題は令和４年12月に改定された「京都府総合計画」からキーワードを抽出して決定する。

(2) 研究課題は次のことを踏まえたものとする。

・企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題

・依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発

(3) 研究結果の普及・活用については次のことを考慮する。

・現況調査では課題を把握・予見すること

・技術の改善・効率化に役立てること

・技術の探求や知見の蓄積を行うこと

2　重点技術課題の設定とセンターの対応力や得意分野（別表参照）

(1)「京都府総合計画」からのキーワード

「ビッグデータ」、「AI」、「IoT」、「VR･AR」、「食」、「ロボット」、「脱炭素」

*以下「中小企業の特定ものづくり基盤技術の高度化に関する指針」の技術分野

ア　ビッグデータ、AI､IoT､VR･AR

（ア）スマートシティ、キャッシュレス、自動運転、遠隔医療、防犯、福祉等に係るビッグデータの活用とAI、IoT等の技術の高度化

デザイン開発、情報処理、精密加工、製造環境、接合・実装、立体造形、表面処理、機械制御、複合・新機能材料、材料製造プロセス、バイオ、測定計測

（イ）観光、技術継承、文化継承に係るVR・AR等の技術の高度化

デザイン開発、情報処理、機械制御、測定計測

イ　食

製造環境、機械制御、バイオ、測定計測

ウ　ロボット

デザイン開発、情報処理、精密加工、接合・実装、立体造形、表面処理、機械制御

エ　脱炭素

（ア）温室効果ガス排出抑制、再生可能エネルギー、廃棄物減量化に係る脱炭素の技術の高度化

製造環境、機械制御、複合、新機能材料、材料製造プロセス、バイオ

(2) 企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題

ア　素材開発に係る技術課題

イ　計測制御技術（ソフト開発、プログラミング）の課題

ウ　業界動向や府内企業のニーズを把握するための調査

エ　指導分野の技術課題

(3) 依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発

ア　機器利用の高度化、高効率化、迅速化

イ　設計評価技術の迅速化

重点技術課題の設定とセンターの対応力・得意分野

課題の出典	技術課題		センターの対応力・得意分野							
		技術分野	企画連携	デザイン情報	設計計測	材料評価	化学分析	電気通信	食品バイオ	表面構造
(1)京都府総合計画（キーワード）	IoT・AI等	デザイン開発		○						
		情報処理		○						
		精密加工			○					
		製造環境			○		○	○	○	
		接合・実装				○	○	○		
		立体造形			○					
		表面処理								○
		機械制御			○			○		
		複合・新機能材料				○	○			○
		材料製造プロセス				○				
		バイオ							○	
		測定計測			○	○	○	○	○	○
	ロボット	デザイン開発		○						
		情報処理		○						
		精密加工			○					
		接合・実装				○	○	○		
		立体造形			○					
		表面処理								○
		機械制御			○			○		
	食	製造環境			○		○	○	○	
		機械制御			○			○		
		バイオ							○	
		測定計測			○	○	○	○	○	○
	脱炭素	製造環境			○		○	○	○	
		機械制御			○			○		
		複合・新機能材料				○	○			○
		材料製造プロセス				○				
		バイオ							○	
(2)企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題	素材開発に係る技術課題					○	○	○	○	○
	計測制御技術（ソフト開発、プログラミング）		○	○	○			○		
	業界動向、企業ニーズの把握のための調査		○	○	○	○	○	○	○	○
	指導分野の課題		○	○	○	○	○	○	○	○
(3)依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発	機器利用の高度化、高効率化、迅速化						○		○	○
	設計評価技術の迅速化				○					

＊重点技術課題は太枠内、○印は主な担当

沿　　革

昭和21年4月　　下京区西七条名倉町に京都府立機械工業指導所が開設され、旧京都府立機械工養成所の全職員と全施設がこれに引き継がれた。
昭和25年8月　　京都府立産業能率研究所の設立
昭和37年8月　　産業能率研究所と機械工業指導所を統合し、京都府立中小企業指導所を設置（それぞれ経営指導部、技術指導部となる）
昭和41年6月　　名称を京都府立中小企業総合指導所に変更
平成元年10月　　京都リサーチパーク内に移転。名称を京都府中小企業総合センターに変更
平成13年4月　　組織変更（経営・技術各部門を機能別に再編、けいはんな分室設置）
平成17年4月　　組織変更（経営部門を(財)京都産業21に移管し、名称を京都府中小企業技術センターに変更）
平成19年4月　　組織変更（北部産業技術支援センター・綾部に中丹技術支援室を設置）
平成20年4月　　組織変更（部制を廃止し、4課2室に変更）
平成24年8月　　京都府中小企業技術センター創立50周年記念事業開催
平成27年4月　　けいはんな分室を「けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）」に移転
平成30年4月　　中丹技術支援室を「北部産業創造センター」に移転

所在地及び施設等の概要

① 本　所

所　在　地	京都府京都市下京区中堂寺南町134 （七本松通五条下ル 京都リサーチパーク内)
土　　地	1,380㎡
建　　物	7,296㎡（延床面積）（平成元年8月竣工、平成13年12月増築）
・　本　館	6,175㎡（鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階（2階を除く））
・　研究交流棟	1,121㎡（鉄骨・鉄筋コンクリート造 2階建のうちの1階部分）
設備・機器	約200機種（100万円以上の機器）

② 中丹技術支援室

所　在　地	京都府綾部市青野町西馬場下33-1 （北部産業創造センター内）
建　　物	1,472㎡（鉄骨造 2階建）
設備・機器	約100機種

③ けいはんな分室

所　在　地	京都府木津川市木津川台9丁目6／相楽郡精華町精華台7丁目5 関西文化学術研究都市（京都府　精華・西木津地区） （けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）内）

令和５年度事業計画書

令和５年６月
京都府中小企業技術センター

〒600-8813　京都市下京区中堂寺南町 134
（七本松通五条下ル）
TEL 075-315-2811
FAX 075-315-9497